

イギリスのレオナルド・チェシャー卿が、冷たい病院のベッドより緑の庭を眺め、家族や友人に見守られて余生を送るほうが幸せだと考えて 1948 年、ガン末期の友人にご自身の家の一室を提供したことが始まりだと言われる『チェシャーホーム』。イギリスでは現在 150 以上の居宅ホームがあるとのことです。

日本国内では、社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会さまが、障害のある子どもの成長を支援し、成人した後も自立した生活を送ることができるよう、生活に便利な居住の場として、宝塚市と、宍粟市一宮町そして山崎町にある『チェシャーホーム』を運営されておられます。10月 20 日（日曜）14 時から、今年も宍粟市山崎町の『チェシャーホーム』・「しそう自立の家」で、第 3 回サロンコンサートが開催されます。

心身を癒し、メンタルケアに有効だと言われる「クラシック音楽」。

作曲家がどのような情景や心持ちを音で表現しようとしたのかに思いを馳せつつ、居住される方々と心を通わす時間になればと思います。

ところで皆さまは、家族や社員、地域の方々と、どのような時間を過ごし、心を通わされていますか。特にご家族と・・・

今年の演目は今から 100 年から 300 年も前に書かれた次の 10 曲です。

- ・イギリスを代表する行進曲『威風堂々』を書いた、イギリスの作曲家エドワード・エルガー 1890 年頃の曲「朝の歌」。清々しい旋律の魅力により人気を獲得しているピアノとヴァイオリンのための楽曲です。
- ・『ラ・カンパネラ』は、ハンガリーのイケメン・ピアニストで作曲家のフランツ・リスト 1831 年頃の曲。（私はなぜかピアニストの清塚信也さんとリストがかぶってしまうのですが・・・）フジコ・フェミングさんや、佐賀のり漁師の演奏ですっかりおなじみになった楽曲です。カンパネラとはイタリア語で「鐘」を意味する言葉です。ニコロ・パガニーニのヴァイオリン協奏曲第 2 番第 3 楽章のロンド『ラ・カンパネラ』の主題を編曲して書かれたピアノ曲です。
- ・ヴェネチアのバロック音楽後期の作曲家アントニオ・ヴィバルディーの 1725 年の曲「四季」から冬「第一楽章」。3 楽章からなる冬の第 1 楽章は、寒さの中で身震いしている。足の冷たさを振り解くために歩き回る。辛さから歯が鳴る。ソロヴァイオリンの重音で身震いを表現しています。
- ・『ヴァイオリンソナタ第一楽章第二楽章』は、ベルギーのオルガン奏者セザール・フランク 1886 年の曲でヴァイオリンソナタの最高傑作といわれています。同郷の後輩ヴァイオリニストのウジェーヌ・イザイの結婚祝いに献呈された曲で、初演は 1886 年 12 月 16 日にイザイによってブリュッセルで行われた。ピアノ、ヴァイオリンともに高度な演奏技術を要する楽曲です。2011 年生まれの himari (吉村妃鞠) さんだったらどんな演奏をするのだろうか？と妄想が膨らみます。
- ・肖像画がフランスの紙幣になったフランスの作曲家クロード・ドビュッシーが愛娘の為に書き下ろした組曲「グラデュス・アド・パルナスム博士」

- ・ハンガリーの持て男のリスト。マリー・ダグー伯爵夫人と 1835 年から 1844 年まで同棲生活を送り、3 人の子供も授かりましたが 1844 年に別れました。分かれて間もない 1849 年の曲『3 つの演奏会用練習曲』の中から第 3 曲 「ため息(Un Sospiro)」
- ・ロシアの作曲家セルゲイ・ラフマニノフ 1915 年の 14 曲目の歌曲「ヴォカリーズ」。歌詞の無い歌曲で母音だけで歌われます。
- ・フランスの作曲家ガブリエル・フォーレの 1893 年の舞曲「シチリアーノ」。イタリアのシチリア地方に起源をもつ 3 拍子の楽曲です
- ・オーストリアの超一流のヴァイオリニスト、フリツ・クライスラー 1925 年の曲「シンコペーション」 リズムの変化に注目してください。
10 歳の時に名器ストラディバリウスをスペイン・イザベラ女王から与えられたヴァイオリニスト・サラサーテ 1900 年の曲「序奏とタランテラ」。序奏は非常に美しいメロディで、タランテラに入るとサラサーテらしい超絶技巧の音楽になります。(代表曲ツィゴイネルワイゼン

卓話 ●米山記念奨学生 劉 陽様

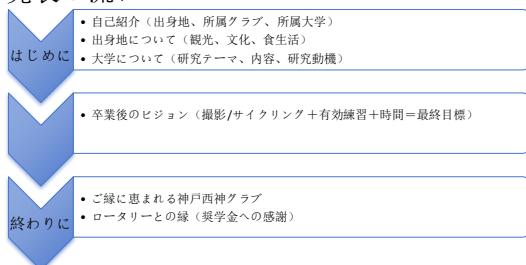
「来るところからきて、未来は行きたいところへ
—在日の感想と卒業後の進路について—」



来るべきとこから来て 未来は行きたいところへ ～夢を形に～

神戸市外国語大学 アジア・言語文化研究科
Rotary 神戸西神クラブ
劉陽 (リュウ ヨウ)
2024/10/10

発表の流れ



自己紹介について (出身地、所属クラブ、所属大学)

- 出身地: 中国山東・济南
- 所属クラブ: 神戸西神



所属大学: 神戸市外国語大学

(日本アジア言語文化研究科・近現代日本思想史)

研究テーマ

『ボストフクシマの絵本は核エネルギーを如何に語るか
～2011年～2021年に日本で出版された作品の分析を手がかりに～』

研究内容

筆者はこれまでに、ポビュラー・カルチャーにおける代表的な文化アイコンであるゴジラとアトムに関する核の言説に興味を持ち続けてきた。より一層戦後日本の人々がどのように核エネルギーによる軍事利用(核兵器)と和平利用(原発)の問題を捉えるために、これまでに積み重ねられた新聞、雑誌、文学、知識人、ポビュラー・カルチャーに偏る傾向の領域ではなく、見過されがちな絵本というメディアに焦点を当てる。これに対して、本研究は福島原発事故が発生してから2021年3月まで出版された原爆絵本、原発絵本、原爆と原発をつなぐ絵本の分析を手がかりに、核エネルギーに関するイメージは如何に語られていたのかを跡づけようとする試みである。

研究動機

大学卒論『シン・ゴジラ』(2016)における東日本大震災の御靈説というテーマから～大学教員から受けた影響が多いです。

研究理由

2011年から2021年までの十年間は核の言説にとって、もっとも重要な時期だと考えられる理由が2021年はちょうど東日本大震災十周年の節目を迎えたことである。震災に関する特集が数多く編集され、福島原発事故を含む震災の記憶に注目を集めたという事実である。また、原発災害による被曝の恐怖は原爆の記憶をよみがえらせ、ヒロシマ、ナガサキ事件をテーマとした絵本もたくさん出版された時期だった。一方、年月を経るとともに、東北地区にも3・11の記憶をない世代が年々増えている。福島原発事故を含む震災の記憶を語り継ぐために、継承を担う子どもたちの存在が焦点となつた。震災の記憶を風化させないため、子どもたちの存在は復興教育にも注目されており、震災に関して「いきる」「かかわる」「そなえる」ための絵本作品が数多く作製された。

なぜ絵本を研究対象にするのだろうか。

ここでは絵本というメディアを持つ主な特徴を述べておきたい。

核エネルギーの言説を考察する際に、絵本というメディアの役割を無視することはできないその理由は以下二点が挙げられる。**一つ目の特徴は、從来から重視されてきた教育現場における絵本の役割である。**本研究において、対象原爆絵本作品の『ヒロシマ消えたかなく』は第66回青少年読書感想文全国コンクール課題図書<小学校高学年>に選ばれた例も挙げられる。また、中川(2011)によると、絵本は子供社会化するメディアだけでなく、幼稚園から大学まで幅広く教材として活用されている。例えば、絵本は外国语を習得するための教材や、大学の児童文学の授業にもよく使われる。また、高齢化社会を迎えた日本では、定年退職後に再び学校や教育機関で学ぶ人々のために絵本が使われることもある。このように、絵本は読み手にとって社会活動の一環としての側面も持っている。このように、歴史的な視点で見れば、絵本が果たしている「記憶の継承」という役割は広島・長崎事件からの連續性を見落としてはならない。原爆と戦争の記憶を語り継ぐために、絵本はその後に一時的に作製されたことも事実である。とくに、学習絵本は読み手に歴史的な出来事や社会的な問題についての理解させるための教育手段の一環として、以前も現在も学校教育の中に推奨されている。

第2の特徴としては、松本(2017)の論考を挙げておきたい。

「現代の絵本は、歴史と自然に限らず、絵本が視覚情報を活用することによって、文字情報中心のメディアとは違ったメディアとして表現の幅を広げている。その分野は、戦争と平和、核と原発、多文化共生、貧困・差別、生と死・老い、人権・ジェンダー等々従来の絵本が扱わなかつた分野に踏み込んでいる。中略...昔話、民話、童話、児童文学、教育という概念の中で語られることが多かつた絵本は、新しい価値観でとらえる必要が生まれてきている。社会的役割についても、教育分野での役割はもとより、病院、介護施設での役割も大きくなっている。21世紀の絵本は、20世紀に確立された「子どものための絵本」の範疇から踏み出しつつある。50年前には美術として認識されなかつた絵本だが、絵本専門の美術館が30館以上になり、公立美術館での絵本原画展は当たり前になつた。芸術ジャンルとしての絵本の認識も拡大されつつある。」

このように、松本(2017)の研究は絵本のテーマの拡大および多様性と社会的役割の拡大についてを指摘していた。

研究目的

これに対して、核エネルギーの言説空間にはどのようなパリエーションがあるのか その言説空間はどういう時間的に変遷してきたか、もしくは変容がないだけすれば、それはなぜなのかという問題意識に対して、絵本も有効な分析対象と考えられる。したがって、本研究では福島原発事故が発生してから2021年までの8年間に日本国内に出版された絵本を取り上げて、原爆絵本、原発絵本、原爆と原発をつなぐ絵本という分類の流れに内容分析と考察を行う。

卒業後のビジョン

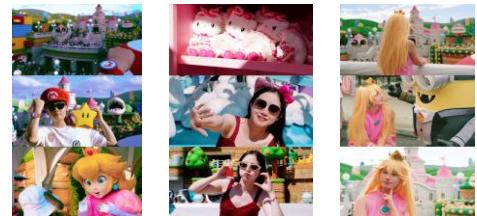
撮影+サイクリング+有効練習+経験=最終目標

卒業後のビジョンは自分が選んだ場で元気よく成長することです。

・夏休みの試み その1 (初めて写真依頼でお金を稼ぎた)

・夏休みの試み その2 (四国遍路・徳島編)

夏休みの試み その1 (初めて写真依頼でお金を稼ぎた)



夏休みの試み その1 (初めて写真依頼でお金を稼ぎた)



これまでのサイクリング履歴

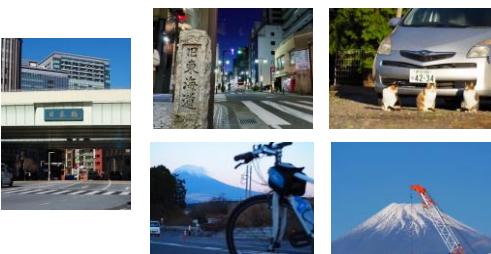
2020年9月 淡路島150km

2022年5月 琵琶湖200km

2023年12月 東海道五十三次 (東京一京都) 500km+

2024年9月 四国遍路 区切り打ち 徳島編結願

2023年12月 東海道五十三次



今昔東海道五十三次



ロータリーとの縁 (奨学金への感謝)

- クリスマスの箱根山にて ロータリーとの縁 (これまでにもらった一番いいクリスマスプレゼント)
- ご縁に恵まれる神戸西神グラブ
- 神戸西神グラブと台湾扶輪会の通訳体験
- 日頃にみなさんのお世話にとても感謝しております。
- みなさんの言行活動を見習い、より一層日本文化を理解できました。

Rotary龍野ロータリークラブでの卓話の
機会にご招待いただき、誠にありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

地区補助金事業報告 ●伊藤委員長

「外国人小学生向け日本語教室の指導員育成のための講習会」(8/25, 9/1・8・29)

現在のたつの市には、日本語を母語としない子供たちが多く暮らしています。わずかなボランティアの方々が彼らに日本語や学校の勉強を教えていますが、ボランティアの数が圧倒的に不足している状況です。

今回の講習会には、24名の方々が参加し、そのうち10名程度がボランティア活動に興味を持ってくださいました。すでに数名の方には、実際の活動に参加してもらっています。現場で教えてている小学校の先生方も出席され、講習会の継続的な開催を希望されているとの声もあり

ました。

今後、これらの声をもとに、講習会の継続および発展に向けた具体的な進め方をしっかりと検討していく予定です。

